

第2期活動趣旨書

特定非営利活動法人レイパス

【第1期活動報告】

1.定量報告

(1)子どもの数

	週1回	週2-3回程度	毎日
11月	1	0	0
12月	1	0	1

2.定性報告

(1)子どもたちの様子

①総評

どの子も通うべき日にはほぼレイパスへ通えている。勉強にも遊びにも積極的に取り組み、生き生きしている。もはや、「不登校」ではない。

学校との連携も適宜行い、レイパスに通うことでの在籍校の出席扱いとなっている子どもがほとんどである。

②子どもの様子（11月12月実績）

・T.T君（小3・男）

週1回レイパスに来ている。PC関連に关心が高く、知識も豊富。小学校1年から学校へは行かず、様々な機関を居場所として活用。嫌なところには通わなくなるが、レイパスには11月から継続して通っている。

・T.F君（中1・男）

毎日レイパスに通っている。中2の4月からの学校復帰を目指している。第2期の1月2月は週2回学校へ通えている。レイパスで学習習慣をつけ、4月から完全復学できるよう努力している。

(2)関係者の声

①保護者

・先生（レイパススタッフ）について

「不登校経験のある先生だからレイパスに決めました」

「子どもの良き理解者となってくれています」

・子どもの変化

「楽しく過ごせており、レイパスなら体調不良にならない」

「レイパスを休まないように、自分から規則正しい生活をしている」

・通学

「駅から近いため、子どもを一人で通わせやすい」

・料金

「チケットとフリープランを選べるのはありがたい」

「無料期間があるのもうれしい」

・クレーム

「低学年だと石油ストーブが危ない」→対応済

「(リフォームによる)接着剤のにおいがきになる」→対応済

②地域

・他のNPO法人

「志が素晴らしい。応援していきたい」

「設立1年目は色々苦労する。教えられることは何でも伝えたい」

・地元商店

「不登校の問題は知っている」→パンフレット掲示など協力

・松原市適応指導教室(チャレンジ)

「選べることが子どもにとって大切。(市の教室が優先などと)狭く考えず、関わっていきたい」

・松原市教育委員会 教育研修センター

「松原市でフリースクールは初めて。できただけでも嬉しい。さらに、学校とも連携し、復帰支援してくれることはこちらとしては大変ありがたい」

・スクールソーシャルワーカー(SSW)

「適応指導教室よりも、こちらの方が合う子もいると思う」

「ようやく松原にもできたかと思う。本当にありがたい」

「不登校の子にレイパスを紹介したが、料金がネックになっている」

③ボランティア

・社会人

「単純に子どもたちと関わるのが好きなので」

・大学生（心理学部1年）

「学校以外の関わりを持ちたいと思っていた」

→コミュニティとしての役割

・大学生（教育学部特別1年）

「これから教員になる前に、特別支援の現場を経験しておきたかった。一生懸命学ばせても
らいます」

(3)今後の課題

①受け入れ可能人数

令和2年2月現在、最大で7名の子どもとスタッフ3名が教室にいることになる。現在の教室では、10名程度が限界である。これ以上子どもが増えるのであれば、広い教室に移転するか2校舎目を開くなどの対応が必要である。

②料金

スクールソーシャルワーカーからフィードバックがあったように、レイパスの利用料がネックになりレイパスへ来られない子どもがいる。レイパスの法人としての実力を高め、経済的にゆとりのない家庭の子どもも通えるようにしなければならない。

③寄付

後述するように、第2期の収入の大きなウェイトを寄付が占める。現在のフリースクールを継続し、子どもたちの学びの場を守るために、寄付は不可欠である。第2期では、正会員の活動の最優先事項を寄付関連活動とする。さらに寄付を集める力の向上は、上記料金課題の解決にも資する。

3.参考資料（写真）





【第2期活動計画】

1.定量

(1)子どもの人数

	週1回	週2-3回程度	毎日
1月（実績）	1	0	2
2月（実績）	1	2	3
3月	4	1	3
4月	2	2	3
5月	1	1	6
6月	2	1	7
7月	3	1	8
8月	2	2	8
9月	2	1	7
10月	2	1	8
11月	2	1	9
12月	3	1	9

(2)不登校の人数

大阪府（令和元年）

小学校 3,410 人

中学校 8,517 人

合計 11,927 人

2.定性

子どもの様子（1月2月実績）

・M.Kさん（中1・女性）

毎日レイパスへ通っている。公立中学の雰囲気が合わないと、他の居場所を模索。大阪市の適応指導教室にも通っていたが雰囲気が暗く他の子どもと話せないため、レイパスに通うようになった。公立中学復帰はしない。進路は模索中。

・K.Yさん（中1・女性）

ほぼ毎日レイパスへ通っている（水曜日は塾）。学校へ行こうとするとめまいが出るため休むように。レイパスでは体調不良はでない。中1で公立中学復帰はしない。進路は模索中。

・Y.H 君（中1・男）

ほぼ毎日レイパスへ通っている（週に1,2回体調不良で休む）。学校（私立男子校）の騒がしい生徒が嫌で学校を休みがちに。レイパスへ来てからは学校へは行かず。それでも復学の希望があり、中2からの完全復学を目指して、2月はレイパスへ毎日通い、3月は在籍校へ通うことに。いい大学へ行きたい想いがある。

・H.T 君（中1・男）

ほぼ毎日レイパスへ通っている。朝起きられなくなり、夜も寝付けない日が続き学校を休むようになった。「レイパスなら行ける！」とレイパスには元気に通っている。復学予定はなく、進路も模索中だが、勉強への意欲があり英数よく学んでいる。

・Y.T 君（小5・男）

体験初回（2/12）のみ。学校へ行く意味を見出せず休むようになった。本人は「レイパスが気に入った。毎日来たい」と言っているが、レイパス体験前に学校へ通うと親に宣言してしまった手前、学校とレイパスを併用する予定。

3.活動計画

(1)レイパスの役割

①子どもにとって

上記の通り不登校の子どもはたくさんおり、レイパスはより多くの子どもたちにとって居場所となっていく必要がある。

レイパスに通う子どもたちには、学習や遊びを通して充実感や安心感を届ける。「学校にいかないといけないのに休んでいる。勉強も遅れていく」という意識を、「レイパスに通っている。学習（勉強）も頑張っている」に変えていく。

②親にとって

レイパスはより多くの保護者の相談を受けていく必要がある。わが子が学校を休むと親は驚くが、学校の担任が頼りになるとは限らない。「レイパスなら子どもの将来について相談できる。頼りになる」と言ってもらい、「レイパスを学校だと思う」という意識にまで育てていく。

③その他関わる人にとって

会員としてレイパスの活躍・成長を見守ったり、ボランティアとして参加なかで帰属意識を高めていく。レイパスに通う子どもたちを、後輩又は子や孫のように感じてもらい、みんなで大切にしていく意識を育む。

(2)校舎と人材

①3階増設

現在のレイパスで受け入れられる子どもの最大人数は、7～8名程度。今後、受け入れる子どもの増加が見込まれるため、現在レイパスが利用しているトラモトビルの3階を増設候補として検討している（6月増設を想定）。増設後は、同時に最大12～13名程度受け入れ可能となる。

②常勤スタッフ

10名を超える子どもを2,3階に分かれて受け入れることから、郷原片渕に続く常勤スタッフの増員を検討している。適性のあるスタッフに12万円/月（参考：時給1,000円×6時間×20日）で業務委託する。

そのスタッフには、フリースクールで子どもの学習サポートなどを担当してもらうほか、例えばファンドレイジングなど運営業務の一部も担ってもらう。

【第1期活動計算・第2期活動予算】

1. 収入（概数）

(1) 第1期

科目	会費	寄付	ボランティア	助成	事業	合計
金額（円）	13万	17万	0	14万	3万	47万

(2) 第2期

科目	会費	寄付	ボランティア	助成	事業	合計
金額（円）	15万	225万	97万	60万	491万	888万

2. 支出（概数）

(1) 第1期

科目	人件	ボランティア	家賃	広告宣伝	その他	創立費	合計
金額(円)	0	0	12万	1万	6万	45万	64万

(2) 第2期

科目	人件	ボランティア	家賃	広告宣伝	その他	合計
金額(円)	635万	97万	135万	13万	46万	926万

3. 合計

第1期：約17万の赤字

第2期：約38万の赤字

以上